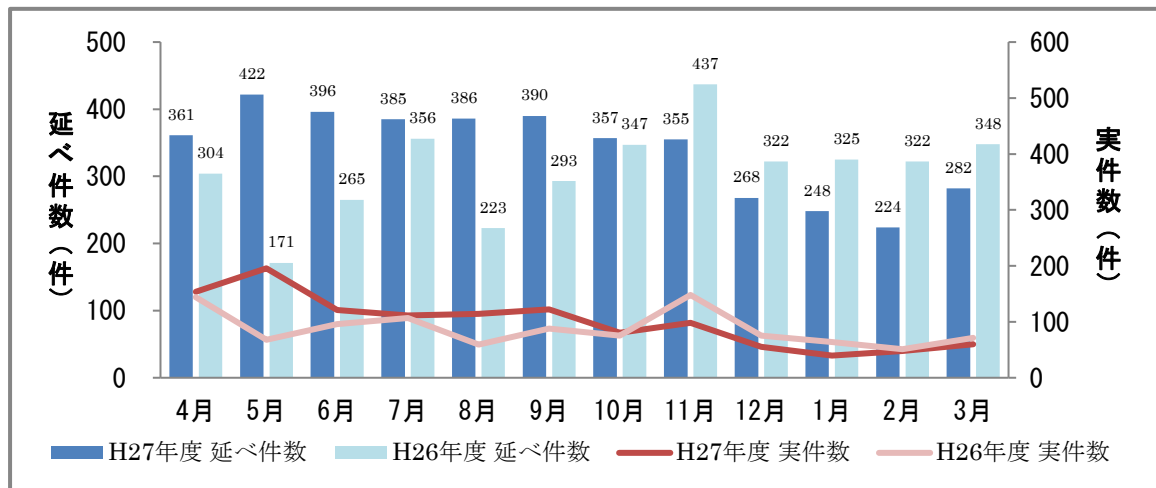
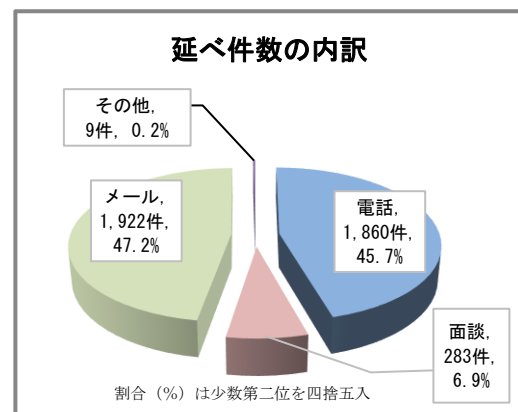
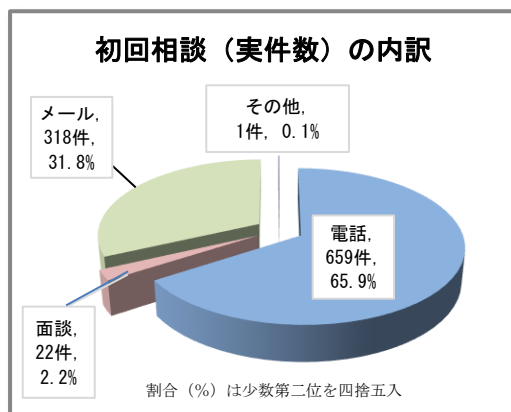


## 1 月別相談受付状況



平成26年度は、4月と11月に相談カード（名刺の大きさ）を配布（4月：小学生、11月：中学生）し、平成27年度は、5月と8月に相談カードを配布（5月：小学生、8月：中学生、高校生）しました。相談カードの配布直後には、PRの効果により相談件数が増加する傾向が続いています。

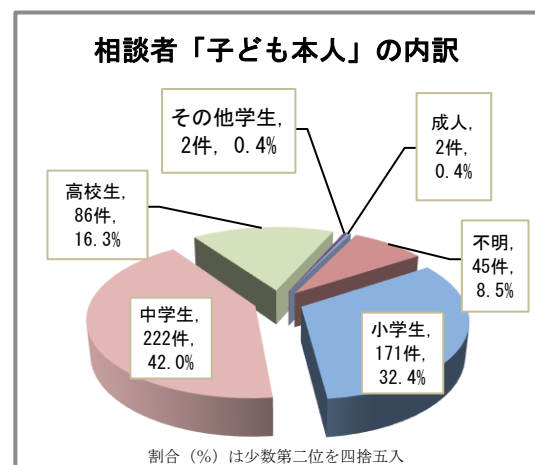
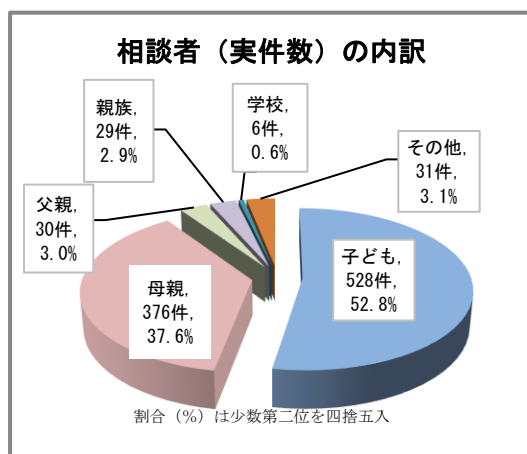
## 2 相談方法の内訳



初回相談については、電話による相談が最も多く6割強となっていますが、メールの方が相談のやり取りの回数が増える傾向があるため、延べ件数ではメールの割合が最も多くなっています。

平成27年度も、前年度に引き続き極力面談につなげて相談者の話を聞くことを心がけており、その結果、面談回数は平成26年度（234回）からさらに増加する傾向にあります。

## 3 相談者、相談者「子ども本人」の内訳



相談者とは、相談してきた人のことをいいます。子ども本人からの相談が半数以上となっており、中でも中学生からの相談が多い傾向があります。

延べ件数全体における相談者と相談方法のクロス集計は、下表のとおりです。

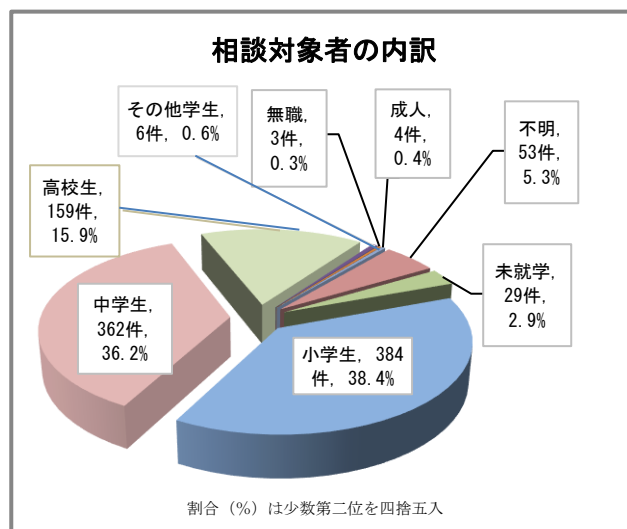
例年同様、子ども本人からはEメールによる相談の割合が多く、保護者からは電話による相談の割合が多くなっています。

相談者と相談方法（延べ相談者数）

区分	子ども本人	父親	母親	親族	学校	その他	合計
電話	655	65	862	47	115	116	1,860
	15.7%	1.6%	20.7%	1.1%	2.8%	2.8%	44.7%
面談	131	32	161	6	28	13	371
	3.1%	0.8%	3.9%	0.1%	0.7%	0.3%	8.9%
Eメール	1,568	10	333	1	0	10	1,922
	37.7%	0.2%	8.0%	0.0%	0.0%	0.2%	46.2%
その他	0	0	4	0	0	5	9
	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%
合計	2,354	107	1,360	54	143	144	4,162
	56.6%	2.6%	32.7%	1.3%	3.4%	3.5%	100.0%

※相談者が複数の場合があるため、合計は相談件数に一致しない。

#### 4 相談対象者<sup>4</sup>の内訳

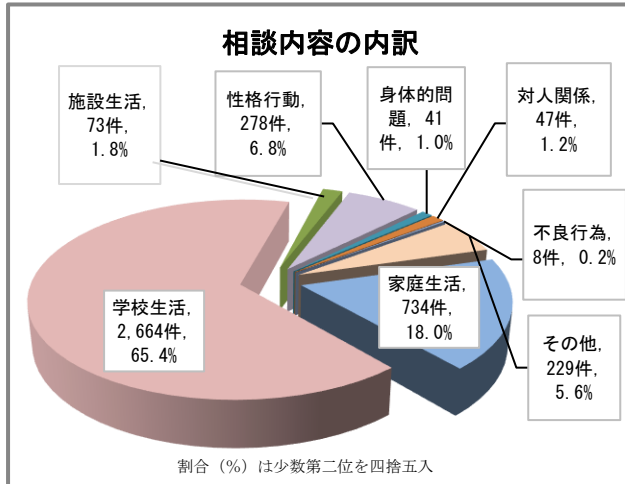


相談の対象となった子どもの内訳は、小学生および中学生がそれぞれ約4割を占めており、例年と同様の傾向です。

#### 4 相談対象者

相談の対象となっている子どもを指します。母親から小学生に関する相談があった場合には、「相談者」は母親となり、「相談対象者」は小学生となります。中学生の子ども本人が自分のことについて相談してきた場合には、「相談者」は子どもとなり、「相談対象者」は中学生となります。

## 5 相談内容の内訳



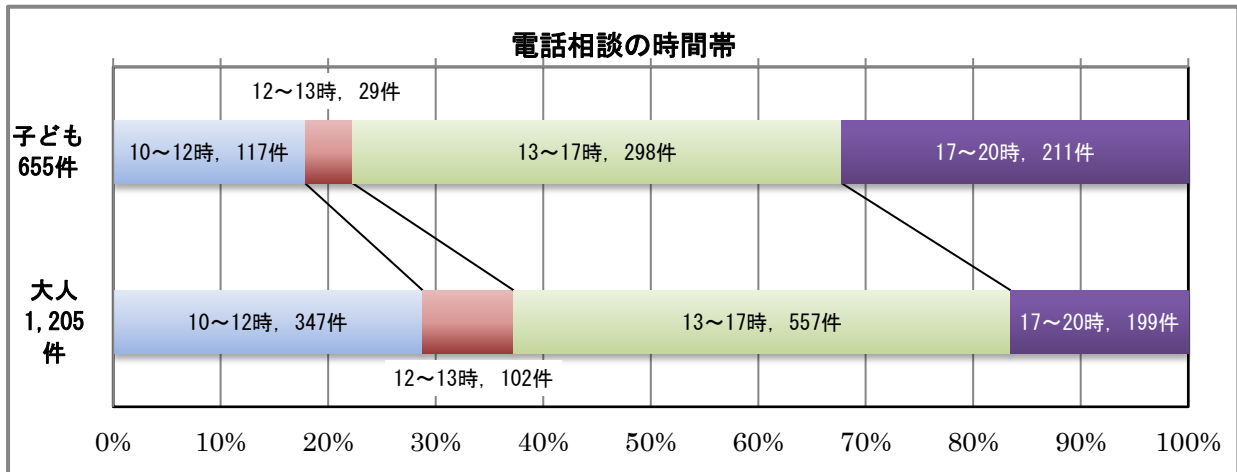
子どもアシストセンターでは、相談内容を「家庭生活」、「学校生活」など8項目に分けています。

延べ件数全体で相談内容の内訳をみると、「学校生活」に関する相談が6割程度を占め、次に「家庭生活」、「性格行動」についての相談が多く、例年と同様の傾向です。

さらに 33 の細目に分けると、上位 5 項目は、下記のとおりです。

子ども (2,354 件)		大人 (1,720 件)	
① 友人関係	712 件 (30.2%)	① 不登校	364 件 (21.2%)
② 不登校	235 件 (10.0%)	② 子どもと教師の関係	294 件 (17.1%)
③ 親子・兄弟関係	199 件 (8.5%)	③ 親子・兄弟関係	153 件 (8.9%)
④ 精神不安	180 件 (7.6%)	④ 友人関係	127 件 (7.4%)
⑤ 子どもと教師の関係	97 件 (4.1%)	⑤ いじめ	126 件 (7.3%)

## 6 電話相談の時間帯



13時～17時の時間帯には、子ども、大人双方から多くの電話相談を受けていますが、子どもについては、学校から帰ってきてからの時間帯（特に17時～20時）にも多くの電話相談を受けています。一方、大人からは、午前中にも多くの電話相談を受ける傾向があります。

相談時間を20時までとしていることは、特に子どもにとって有効であるといえます。

## 7 その他

相談件数として計上はしていませんが、子ども専用の通話料無料電話には、無言電話やいたずら電話が210件ありました。（平成26年度は313件）

かけてきたのは、ほとんどが子どもであると思われませんが、中には相談をためらっていたり、相談員の反応を確認したいという気持ちが含まれていたりする可能性もあるため、慎重に対応しています。